

## 令和6年度 予算編成指針

令和6年度東京学芸大学附属国際中等教育学校「教育活動助成金(委任経理金)」「教育文化基金」(以下「両予算」)編成に当たり、下記の通り編成の方針を決定し、本指針に基づき、令和6年度両予算を編成する。両予算は、来年度のPTA総会で提案・承認されるものであり、本編成指針は、本校に立案を委任されている両予算原案の根幹を成すものである。

### 記

#### 1. 予算編成の課題

歳入強化を図った令和3年度の教育文化基金総会において、令和4年度から令和6年度までに段階的に同基金年会費を増額していくことが決められたことにより、本校の財務基盤は大幅に強化された。完成年度となる令和6年度の歳入は、増額前に比べて年間約2,100万円の増となる。残された課題は、令和3年度予算編成から実行されてきた①予算編成指針→②予算請求→③ヒアリング→④予算案決定の一連の流れを定着させ、予算執行にあたっては保護者・生計維持者に説明責任の尽くせる歳出の仕組みを整えることである。

#### 2. 基本的編成方針

事業全般について、その必要性、効率性、成果を十分に検討し、事業の実効的な推進のため、執行体制について責任と権限を明確にし、意思決定を行い、恣意的な予算執行を防止する。そのため、起案決裁を徹底する。現状並びに今後の課題の解決を図るため、各予算の意義を十分に踏まえて、各経費項目間の優先順位を決定する。その際、厳しい選択を図り、将来的な成長を見込んだ「賢い支出」を心掛け、限りある財源を効果的に配分した予算を編成する。このことにより「学校経営計画」に基づく本校の教育活動を予算面で支えることとする。

#### 3. 令和6年度の編成方針

本校は、全国初の国公立校における国際バカロレア(IB)ワールドスクールとして、中等教育プログラム(MYP)及びディプロマプログラム(DP)を実施している。本校におけるIB教育の充実に加えて、我が国におけるIB教育のショーケース的役割を果たす学校として、文部科学省や同IB教育コンソーシアムと協力して、IB教育を全国に広め着実な取組みへと根付かせていくこと、また東京学芸大学教職大学院と協力して、IB教員養成の場を提供していくことが、本校の使命である。また、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)2期最終年度にあたり、現在、3期目指定を申請中である。本年度末において、万一3期目指定をとれず、経過措置校となった場合には理数教育振興予算が大幅減となる。3期目指定の成否にかかわらず、理数教育充実の重要性に鑑みて、一定規模の理数教育振興予算は本編成において措置しておく必要はある。3期目指定となり、本編成において不要となった予算については転用することなく、補正予算の財源とすることとする。引き続き学校のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を進めると同時にAIの活用を進める。再開された海外との交流活動や海外での教育活動、とりわけ5年次の海外ワークキャンプにおいては安全を確保した上で、世界情勢の変化を踏まえ、内容の充実を図る。

これらの特色ある教育を実施するため、前例踏襲主義や形式平等主義を排し、学校の根幹である授業支援を

中心に据え、加えて以下の各点を編成の基本方針に定め、必要諸経費のバランスを考慮しながら予算編成を行う。

(1) 本校の課題解決を図る予算編成を実現する。

- ① 歳出項目の内容を精査し、各項目と支出内容が一致するよう予算建ての正常化を果たす。
- ② 経年劣化の見られる校内設備、管理用什器類を調査し、多様な学びを促進するための更新計画を管理部門、担当部署を中心に策定し、施設改良を含めた予算を確保し、計画執行する。
- ③ ターフグラウンド美化の予算を確保する。
- ④ IB の MYP/DP を実施する上で改善の必要な事項および探究型の授業展開を支える教材教具は優先的に措置する。
- ⑤ 生徒の健康安全に直結するものについては優先的に措置する。災害・侵入者・不審者から生徒・教職員を守るための機器予算を措置する。
- ⑥ 教育活動の DX 化・AI の活用について措置する。授業、国内外学校との交流、図書館の DX 化については特に配慮する。
- ⑦ 進路指導力の向上に関する研修会実施の予算を措置する。加えて、北米・欧州・アジアオセアニア地域の大学への進学指導力向上のための予算を措置する。
- ⑧ 5 年次の海外ワークキャンプ実施のため、現地踏査をはじめとした予算を措置する。また、生徒を海外に派遣する事業予算について措置する。
- ⑨ 学問的誠実性に係る取組みについて措置する。
- ⑩ 「第二言語としての日本語指導 (JSL)」をプラットフォームとした特別支援を必要とする生徒への支援及び「母語伸長サポートプログラム (FLS)」については措置する。
- ⑪ 諸手続・申請のペーパーレス化など事務手続きの簡素化を進めるための予算については、希望により措置する。
- ⑫ 生徒募集予算については希望により措置する。海外、特にアジア方面への広報を強化する。

(2) 市民感覚やコスト意識に裏付けられた適正な予算編成に努める。合わせて、計画的・日常的に事業執行に係る検証を行う。

#### 4. 中・長期的編成指針

以下の各点を中・長期的編成の基本方針として定め、必要諸経費のバランスを考慮しながら継続性を重視した計画的予算編成を行い、事業の円滑な推進に資する。

- (1) 廃プールの撤去・W棟へのエレベーターの設置など施設の大規模改修計画を策定する。
- (2) 附属大泉小学校が PYP 認定校となったことから、この地区の統一的な整備について、引き続き関係者と協議する。
- (3) 創立 20 周年記念事業を検討する。

## 令和6年度 教育文化基金予算案

### 1) 収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	12,681,062	
①入会金	8,890,000	70,000×127名(18回生:112名+編入生:15名)
②年会費	28,432,800	39,600×718名(在籍生徒718名)
合計	50,003,862	

### 2) 支出の部

項目	予算額	備考
①運営事務費	690,000	共有文具、レンタル携帯、ポケットWifi 他
②人件費	4,800,000	事務職員手当、用務外出(IB研修教員) 他
③学校支援費	12,414,280	図書館整備392万円、防災対策52万円、掃除・美化75万、保健衛生290万円、行事関係152万円、生徒活動補助176万円、その他104万円
④教科教材費	6,100,424	各教科(国語・社会・数学・理科・保健体育・音楽・美術・書道・外国語・技術・家庭・情報・道徳) 消耗品・備品(教材・教具)、実験・実習費、書籍、その他
⑤渉外費	1,498,000	全附連・関附連会費、キャリアガイダンス、卒業生講話、交流/入試等補助 他
⑥積立金	21,900,000	周年行事積立金(記念出版、記念学校グッズ等)30万円 特別会計積立金(システム・施設の充実等)2160万円
⑦予備費	2,601,158	
合計	50,003,862	

\* 教育活動助成金

4,308万円=6万円×718名(在籍生徒718名)

1,050万円=50万円×21名(DP生徒数9名+12名) DP

### 支出予算

項目	金額	備考
①事務経費	8,147,000	システム保守・機能追加、ZOOM、DeepL、司書、複写機・印刷機、PPC 他
	<b>DP</b> 2,340,000	DP年会費、Turnitin、ManageBac、QuestionBank 他
②施設維持費	6,720,000	W棟エアコン保全、エアコン洗浄、自転車置場整備、施設補修 他
③設備備品費	2,733,000	校舎内防犯カメラ、国際連携室スクリーン、各教科什器、IB什器、教育実習ホワイトボード、ロッカー備品 他
④教育機器関係費	3,750,000	NAS保守、各教科PC、PC修理、各教科プロジェクタ等、共有ケーブル等、各教科トナー等 他
⑤環境整備費	3,190,000	モップ/マット賃貸借、感染防止対策、校舎・プール清掃、裁断車、粗大ゴミ処理、特殊清掃 他
⑥各部費	1,797,000	各部(総務部、教務部、生活指導部、研究部、進路指導部)の活動費
⑦各委員会費	3,034,000	各委員会(入試選抜・問題作成、広報、情報、国際教養、交流、IB、SSH)の活動費
	<b>DP</b> 1,516,000	DP各教科教材・教具、過去問、評価訪問用文具、DP試験送料 他
⑧旅費	7,705,614	学校行事引率・実踏費、部合宿、全附連等、広報外部説明会、教員研修 他
	<b>DP</b> 980,000	ワークショップ関係、IB校視察・交流、IBCミーティング 他
⑩講師費	5,784,000	スクールカウンセラー、学校医相談、海外進学支援、JSL/FLS、学習支援、各行事講師、エビペン講習 他
	<b>DP</b> 4,860,000	DP授業人件費、IB卒業生謝金、IBITサポート、IBDP講師謝金
⑫予備費	219,386	
	<b>DP</b> 804,000	
小計	43,080,000	
小計(DP)	<b>DP</b> 10,500,000	
合計	53,580,000	